

平成 30 年度第 1 回相談支援・研修部会

日 時：平成 30 年 8 月 29 日（水） 10：00～11：30

■議論の要旨

（議題）

1 地域生活支援拠点等の整備促進、必要な機能の強化・充実のための県会議の開催について（厚生労働省共催）

【地域生活支援拠点等整備の状況（委員から）】

■北部圏域

- ・一昨年から議論しており、昨年度は 3 市共通理解のために県内アドバイザー派遣事業を利用して 3 市合同勉強会を開催し、別府市の取組について説明を受けた。
- ・各市の強み（宇佐市：社会資源、中津市：医療的ケア）を活用するためのコーディネート部分をどうするかといった議論をしてきた。
- ・できていない理由等を協議していくとより活性化されると思う。

■豊肥圏域

- ・まだ具体的な話は挙がってきていない。
- ・圏域での横展開はないと感じている。

■中部圏域

- ・大分市は 9 月から地域生活支援拠点を西部公民館に設置し、委託相談支援事業所がホルトホールから移転してくる。
- ・大分市はモデル指定でやっているの、相談は拠点で受けるが、実際に動くのは委託を受けた事業所。
- ・大分市障害者虐待防止センターが同じ建物に入り、行政の職員が常駐するのでなんとか上手くいくと期待している。
- ・圏域内には大分市と連携できないかとの打診を行政の担当者レベルでしている市もある。

■東部圏域

- ・別府市は拠点整備の 5 つの機能の内の「相談」と「地域の体制づくり」を中心にやっている。
- ・基幹相談支援センターが 4 箇所あるので、そこが区割りをして総合相談と緊急時の初動対応等をしている。
- ・今年度は「専門的人材の確保・養成」に力を入れたい。研修体制のシステム作りをしている。
- ・「緊急時の受け入れ・対応」、「体験の機会・場」については、別府市は知的障がいに対応できる大きな法人が無いため、それが今後の課題。

- ・区割りが地域の人たちに周知されていない。住民に周知をして、一緒に地域づくりをしていくことも拠点の役割かと思う。
- ・色々な資源をコーディネーターが調整しながら結びつけるのが一番大事。
- ・日頃から支援をしている事業所で対応する大分市の仕組みは非常にいいと思う。

■南部圏域

- ・整備の経緯は、市内に各事業所が集まる場所があり、市からそこで拠点のことを考えてはと依頼があった。
- ・当初は多機能拠点型で、廃校の跡地利用を考えていたが叶わず、現実的には面的整備で各事業所の機能を生かして5つの機能に充てていく形で整備した。
- ・5つの機能の内、どのニーズが多いのかが分からない。

■西部圏域

- ・日田市では、重度心身障がい者のグループホームを作り、24時間体制で、医療的ケアを含めた機能を持たせた。
- ・重度心身障がいと強度行動障がいの方々の緊急時に、命を守るということの機能が必要。
- ・大分市から、日頃支援している事業所の方たちが対応できるのが本人にとっていいとの説明を受け、感心したので、その方式でできないか協議をしている。
- ・2町に関しては、日田市まで距離があるため、2町でやるということもあるかもしれないが、資源がない。

2 圏域会議の開催について

【委員からの意見】

- ・参加者に、委託の相談支援事業所も入れてほしい。
- ・委託相談支援事業所が県や圏域内の市町村と一緒に話せる機会や見える関係があるのがいい。
- ・来年度以降も、継続してほしい。
- ・他の圏域の状況を知りたい。

【意見に対する事務局の回答】

- ・委託の相談支援事業所も参加してもらおう。
- ・来年度以降については、今年度の状況をみて検討する。
- ・圏域会議の日程が決まったら委員に案内をするので、他の圏域で参加できるところに行って、一緒に話を聞いてもらってもいい。